

(1)概要

日時	令和5年7月6日(木)13:30~15:40	
場所	大阪府立寝屋川支援学校(視聴覚室) ※集合開催、web 開催併用	
出席者	会長	辻 行雄(L's College おおさか)
	副会長	富永 光昭(国立大学法人 大阪教育大学)
	委員	山崎 淳(寝屋川市立梅が丘小学校)
	委員	藤本 財久(寝屋川市立あかつき・ひばり園)
	委員	川橋 健太郎(グローバルコミュニティ株式会社)
	委員	白石 倫子(寝屋川支援学校 PTA 代表)
	校長	阪本 友輝
	准校長	藤田 太朗
	事務局	
	事務部長	清水 紀行
	教頭	豊島 秀多
	教頭	東川 彩 (事務局長)
	統括首席	坂田 真一
	首席兼教務部長	西橋 聖次
	首席	亀村 尚希
	首席	角尾 将司
	指導教諭	日置 節子
	小学部主事	伊佐敷 香奈
	中学部主事	槇野 健太
高等部主事	西村 真也	
進路指導主事	坂元 久美子	

(2)議事録

内容
① 学部の報告について ② 令和 5 年度採択教科書について ③ 学校経営計画に関する事項 ④ 学校評価に関する事項

議事録

阪本校長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが5月8日に5類へ移行した。 ・3年間で培ったノウハウを活用し、学校の教員の働き方改革をしつつ、学校教育活動を充実させて子どもを育てていきたい。 ・委員の皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。
伊佐敷 小学部主事	<p>【学部の報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スライドに沿って説明 ・学部目標 <ul style="list-style-type: none"> 意欲をもって、生き生きと活動する子 1. 生活リズムを整え、健康な身体をつくる。 2. 日常生活の中で、一人でできることを増やす。 3. 友だちをつくり、集団の中で楽しく活動をする。 4. 自分の気持ちや要求を表現し、伝える。 5. 興味や関心をひろげ、考えたり、工夫したりする。 ・学部間交流 <ul style="list-style-type: none"> 1. 普段の授業の延長で交流 <ul style="list-style-type: none"> →高等部との交流では、児童が「早く高等部になりたい」と感想を言っていた。
槇野 中学部主事	<ul style="list-style-type: none"> ・レジュメに沿って説明 ・学部目標 <ul style="list-style-type: none"> 1. ゆれうごく心とからだ、自分さがしから自分づくりへ ・授業の様子 <ul style="list-style-type: none"> 1. 動画視聴(授業:教科・縦割り特別活動)
西村 高等部主事	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドに沿って説明 ・学部目標 <ul style="list-style-type: none"> 1. クラス編成 2. HR 教室の様子 3. 生徒の様子 <ul style="list-style-type: none"> 1年生38名 2年生27名 3年生48名 4. 朝のランニング(月水金) 朝のパワチャレタイム(火木) 5. 運動会の様子 <ul style="list-style-type: none"> 今年度から縦割りの競技をして盛り上がった。 6. プール学習 7. 課外活動:運動クラブ等

西橋首席 兼教務部長	【教科書採択について】 ⇨レジュメに沿って説明
辻委員	・教科書採択について困っているところは？
西橋首席 兼教務部長	<p>・下学年で採択した教科書については、採択することができないルールがあるために、小学部の時に採択した教科書を知らずに、中学部・高等部で採択をしようとしたら、以前に採択したということで、再採択という形になる。</p> <p>現在、系統立てた教科書の採択を計画中</p>
藤本委員	<p>・感想(小学部について)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 園でも4つの子ども像を設定しているが、小学部の5つの学部目標と概ね共通する目標と取り組みになっているように思う。 2. 絵カード等の視覚支援に係るツールは有効に活用していきたい。 3. 4月から 12 名の園児が寝屋川支援学校へ入学しているが、指導内容・方法について学び、園での就学支援に活かしたい。
山崎委員	<p>・感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これまでは、首席のみだったが、学部の紹介もあった。 2. 子どもたちと関わり、部をまとめ、運営していく立場でありながらの発表の準備は大変だったと思う。 3. 自校に帰ると、学校運営協議会を運営する立場なので、すごく準備をされたように思う。 4. 学部の紹介から、縦割りがテーマになっていた。 5. 小学部の児童が早く高等部にいきたいと言っている。とてもよかった。 6. 学部を越えて、教職員が連携する。学校が一体化していく。 7. 高等部は、自立。一人でなんでもできる。⇨社会的自立に向けて
川橋委員	<p>・感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学部間の交流で、先々が見える、成長に刺激がある。
川橋委員	<p>・質問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 交流はどんなもの？
榎野 中学部主事	<ol style="list-style-type: none"> 1. 寝屋川4中⇨モザイクアート 2. 守口支援⇨ゲーム 3. 北河内臈ヶ丘高校⇨英語 4. 牧野高校⇨吹奏楽部との交流

白石委員	<p>・感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の子ども3年生、1・2年生の間にもすごく成長した。 2. 中学部・高等部とどのように成長していくか、すごく不安だが、今回学部の紹介を見せていただき、見通しをもてて、安心した。 3. 学部を越えての交流を行うことで、子どもたちも同じように見通しを持って、安心して取り組みを進めていけるのではないかと思います。
阪本校長	<p>【学校経営計画に関する事項】</p> <p>・学校経営計画(小中)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度の評価について <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどが○だが、△もある。 ・一人一台端末、本校は進んでいる方だと考えているが、活用状況が保護者には届いていないかもしれないので、情報発信をしていきたい。 ・保護者との連携について学校教育自己診断保護者評価の全体平均 85%をめざしていたが、82%だった。 ・働き方改革について、まだまだ改善を進めていかないといけない。 ・◎がある。分掌の再編(8分掌⇒7分掌) 2. 学校経営計画は、校長・准校長が作成するのが通常だが、教員から案を募り作成している。キャッチフレーズをつけているので、覚えやすいものになっている。 <p>◎知的障がい教育の専門性向上</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ペクス以外のコミュニケーションツールも活用して進めている。 2. ICT を活用し、教材バンクを作成し、どう教えるかに力を発揮できるように環境整備。 3. 文部科学省著作教科書の指導書を活用 4. カリキュラムマネジメントについて、今年度支援学校教務研究会の幹事校になっていて、同じくカリキュラムマネジメントを進めている。 5. 行事と授業をつなぐ。 6. 一人一台端末の使用を促進している。 7. 防災、これまでたくさん取り組みを行っており、長期休業中に研修等をしている。防犯は今年度警察を招き、訓練、研修を行う。何ができないかを確認し、子どもたちの安全を図っていきたい。 8. 人権について、これまでは担当が中心となっていたが、人権教育推進委員会を立ち上げた。学期に1回だけでなく、複数回の会議を設定していく予定。 <p>◎保護者・地域・関係機関との連携</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ICT を活用して、長期休みの期間にストリームで投稿等を行う。 2. 写真のWEB 販売(遠く離れていても閲覧・購入できる。)

	<p>3. 情報発信について、e メッセージのアプリ化</p> <p>◎働き方改革</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教員の健康を第一に、管理職も早く帰ることで意識づけ。 2. 分掌の再編。 3. 学校経営計画を拡大掲示、みんなで意識して取り組みを進める。 <p>◎地域支援</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コーディネーターの育成 <p>・学校経営計画(高)</p> <p>高等部を中心に令和4年度 肯定的評価が下がっている項目があった。それらを踏まえて令和5年度を検討している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育プログラムの活用を計画の最初に持ってきている。 昨年度はキャリア教育プログラムを保護者に提示していなかったが、今年度は年間に1度は提示していく。 2. キャリア教育プログラムのサンプルの提示⇨資料をもとに説明 3. キャリア教育プログラムを懇談時に保護者に提示することで、保護者と教員が連携し、自立活動の目標設定を行う事が可能。 4. 生徒の実態を的確に捉えて、自立活動とキャリア教育プログラムをうまく連動させることで、自立活動の推進に繋がる。 5. 小・中学部はペクスの取り組みが推進されていることから、活用している児童生徒が高等部に進級した時に、活用を継続していけるよう準備を進めたい。 6. 多くの授業で ICT 機器の活用をしているが、一人一台タブレット端末の活用については段階的に推進していきたい。
山崎委員	<p>感想</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャッチフレーズ 福井前校長がキャッチフレーズを出されたときは、衝撃だった。 年を越えるごとに、よくなっている。 2. 働き方改革 先生方の笑顔がなければ、子どもたちの笑顔はない。 同僚性 先生たちが仲良くなれば、子どもたちも仲良くなる。 3. 首席間連携、教頭連携 仕事が偏ってしまうことは、否めない。 仕事ができる人に仕事が集まっていくから、SOS を出してと言っている。 それぞれが身体を大切にしてほしい。 4. 以前、教育実習でお世話になった先生より 寝屋川支援学校の先生は、教え込むのではなく、一歩引いて、児童生徒が

藤本委員	<p>自分でできるようにしている。</p> <p>5. 子どもの障がいを理解している評価結果に減少がみられること。 保護者は、子どものことを理解してほしいと思っている。 理解をして、勉強していかないといけないと思う</p> <p>1. 「保護者との協力・共同での子育て」という考え方を記載した療育計画の説明会を、コロナ禍では文書配付のみとしていたが、今年度より再開した。その中で、改めて分かり合う事、その姿勢が大切と感じた。</p> <p>2. 働き方改革 残業を減らすこと、業務の見直しについて、昨年度後半から検討して、進めているが、効果が現れにくい。</p> <p>3. 1に健康、2に家庭、34がなくて5に仕事 なかなかここまで打ち出せないが、これくらいしないといけないのかと思う。</p>
川橋委員	<p>1. ストレスチェック ここで掲げると、よく見せようとする方がおられるので、別の提示の仕方が良いと思う。</p> <p>2. 働き方改革 業務効率化・平準化のなかで、令和4年度はペーパーレスが推進されているが、令和5年度はペーパーレス化の記載は無くなっていたので、校内では推進されているからかと思う。 この会議では事前に配付されているので、それぞれで準備をいただくか、貸出用のタブレットを準備すれば良いかと思う</p>
阪本校長	<p>1. ペーパーの配付が必要な方は、事前に確認をする形で。</p>
辻委員	<p>用紙に書き込みながら行なっているので、用紙はあった方が良いかな。</p>
富永委員	<p>1. ペーパーレス化については、学校経営計画については全体像を把握するためにあった方が良い。 全ての用紙を印刷していると大変なので、画面で共有しながらすることも必要。</p> <p>2. 学校経営計画のポイントはどこかいつも見ている。 ・寝屋川支援学校は先生方の意見を吸い上げて行えていることは素晴らしい。 ・ただ非常に広がりやすくなる。ポイントが大切になってくる。 ・高等部の報告から、キャリア教育がベースになっていると感じた。いろいろな学校でキャリア教育を進められている。自立活動、教育課程との連携が求められる。 ・キャリア教育では、情報活用や社会に向けての、ワークではなくて、ライフの分野も大切になってくる。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にもキャリア教育プログラムを提示することで、とてもよくなっていく。 ・学校は、入口と出口が特に大切。キャリア教育で繋がってくる。 ・ICT はどこの学校でも中心に入ってくる。教材が変わってくる。 ・防災については、先進的な学校の取り組みと連携していくとあるが、どのような形となっているか？ ・集団の編成はどのような形となっているか？縦割りの連携を充実させて進めてほしい。 ・他校では、高等部で作成した防災学習の教材を小学部の児童が活用しているところもある。 ・放課後デイサービスとの関係性が重要になってくる。
白石委員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 昨年度の最後の学校運営協議会に参加させていただき、学校経営計画について知った。保護者に学校経営計画についてまだまだ知られていない。校長先生と一緒に考えていきたい。 2. 防犯訓練の様子をまた教えてほしい。 3. ICT 関連で、先生方の中に不得意にされている方もおられる。同僚ではない特化している部署に聞けると良い。同僚だと聞きにくいところがある。
	<p>質問</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. キャリア教育プログラムは一律で決まっているものなのか。どのように見立てているのか？ 評価の視点は誰の視点か？ できたことを子どもと保護者と確認してほしい。 小学部と中学部でもどんどん活用してほしい。
藤田准校長	<ul style="list-style-type: none"> ・本校ホームページに掲載している。 ・保護者懇談や引継ぎ等の情報を含め担任が見立てを行い評価している。 ・低学年の場合、表に現れない成長も多くみられるが、表をメインにすると成長していないと思われ、保護者の不安を煽ってしまう可能性がある。 ・まずは、高等部で取り組み、効果が現れたら、中学部・小学部に組み込んでいってもらえたらと思う。
富永委員	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高等部から保護者と共有して、順次、中学部・高等部と進めてほしい。 2. キャリア教育は小学部からの積み重ねがとても重要。
辻委員	<p>今年はこれでスタートして、中間での進捗報告を楽しみにしている。</p>
藤田准校長	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの方の意見を伺う事が大切。

	<ul style="list-style-type: none">・保護者対応について、ICT化が進んでいくと、最短で進めていってしまう事がある。丁寧に話を聞いて、丁寧に対応することが大切。・さまざまな意見を頂いたので、それらをもとに、校内でも検討を重ね校内でもより良い方向へ進めていきたいと思う。
--	---